

平成17年6月(2005年)No.474

## 日曜昼間例会考

会長 合原一夫

映像を趣味としてやっていたら、人たちの平均年齢が、フィルム時代に比べて大分上がってきました。一方、写真の趣味のグループは熟年の女性が多いのに、ビデオクラブでは5%以下です。お電話を頂いて、例会は夜だと告げますと、夜は夕食の支度や主人が帰ってくるので出歩くのは無理だとか、夜の外出は怖いから等という答えが返ってきます。また、男性の中でも高齢者では夜はかんべんしてくれ、等の声も聞かれるようになりました。また例会でも作品上映が増え、6時～9時では上映するだけで時間が経ってしまい、ゆっくりと講評や皆さんの意見を聞く時間がないのが実情で、これが昼間だと1時間長いのでゆっくりできます。昼間例会だと、その後の二次会も遠方の人でも安心して参加して頂けることでしょう。

しかし、土曜の夜の例会はすっかり根付いており、会員諸氏の年間スケジュールが頭に入っている筈です。また、地域社会では日曜の昼間、ボランティアとして活躍されている方、家族と一緒に過ごしたい方など、貴重な日曜かも知れません。もっとも毎日が日曜日という方も多いですが。

会場申込みは3ヶ月前なので、すぐ、どうこうするというわけではありませんが、日曜午後例会開催は今後の課題であります。先日箱根で行われた日本アマチュア映像作家連盟の映像サミットで、昼間の例会に切り替えたら急に女性会員が増えたとの報告があったのが印象に残りました。

### 6月例会のお知らせ

6月例会は25日(第4土曜日)18時より難波市民学習センターにて開催します。秋のフェスティバルも控えています。どうか作品をお持ちの上、早めにお越し下さい。

### 作品研究会のお知らせ

偶数月ですので作品研究会を例会日の午後1時30分より開催します。秋のフェスティバル出品予定作品について皆さんの意見や助言を受けたいい作品、未完成でもよいですからぜひお持ちください。

## へらぶな釣り選手権大会雑感

今年の OMC 撮影会は、橋本の釣竿づくりがテーマとあって、第3回目のロケハン方々、橋本市の釣り堀で行われた「全国へらぶな釣り選手権大会・決勝大会」の様子を岡本氏に誘われて見てきました。参加者は前田、森田、関、合原の4氏に岡本氏と計5名、難波発7時の急行にて現地入りしました。

世の中、いろんな選手権大会なるものがありますが、釣りの世界でも全国規模の競技会があることを初めて知りました。全国の地区予選を勝ち抜いてきた腕自慢の106名の選手が合図と共に一斉に釣り始めるサマは壮観です。へらぶな釣りは、可也り熟練しないと難しい釣りのようです。浮きの微妙な動きを的確に判断して引き上げる、そのコツが、たまらない魅力なのでしょう。大の男たち(女性も何人かいましたが)が、じっと水面をみつめて魚とのかけ引きに神経をそそいでいる姿は、やっぱり釣りが好きでなければこそと云えることでしょう。釣りをやっている人たちにとっては、ビデオ撮っていて何が面白いんだろうと、思っていたかもしれません。

選手権に出場されている方々の釣り道具は、皆さん立派なものをお持ちです。少しでもいい道具をそろえることは、その世界では自慢の種でもあり、優越感があるのではと思います。趣味の世界はいずれも同じだと思います。一竿何十万円という釣り竿を出して皆の前で釣りをする、何ともいえぬ気分かも知れませんねえ。その竿を作っておられる城英雄さん(今回の撮影会で撮らせていただく方)は今回の大会の審査委員の一人として会を取りしきっておられました。城さんにしてみれば、自分たちが手作りで作上げた竿が、こうして大会で華々しく活躍していることは大変な誇りであり感慨深いものがあることでしょう。

午前の部の予選大会では多い人は22Kg、少ない人で4Kgほど釣っていました。班別に多く釣った方が午後の決勝に進出されますが、私たちの今回の撮影目的は、釣り大会ではありませんので、午後の部は途中

で失礼して帰路につきました。(合原)

### ■ロケハン素材テープおわけします

前回ロケハンで工程の一部や市街俯瞰、竿づくりの大家、魚集さんの釣りの近接撮影(関、合原、吉岡、岡本の4氏)映像に今回の全国へらぶな釣り大会の映像(吉岡氏には会長より映像提供)を加えた素材テープを撮影会参加者におわけします。ワイド希望の方は関氏へ、標準で16ビット希望の方は吉岡氏へ、12ビットでよい人は合原氏へ申し込んで下さい(500円頂きます)。

### ■おしらせブザーは切っておきましょう

二人以上で撮影するとき、被写体のかすかな現場音を録音したいときや、インタビューの際、他人のカメラのスイッチを入れたり切ったりするとき”ピーン”等のお知らせブザーが鳴ると大変困ります。撮影会のマナーとして、カメラのメニューで必ず音を出さないようにしておいてください。

### ■新入会員ご紹介

西井 学さん TEL077-582-4803  
〒524-0043 滋賀県守山市二町町30-46  
よろしく願いいたします。

## 5月例会のレポート

ひと月ごとに季節が変わってきます。5月例会の28日は、そろそろ上衣も脱ごうかという初夏のような気候でした。今月も例会を待ちわびた会員諸氏で盛会でした。

今月の司会は合原氏、書記安居氏、デッキ係、江村、増池の両氏、受付兼照明係は奥、渡辺の両氏の担当で会を進行しました。

■出席者：有村、江藤、江村、岡本、奥、上総、紙本、黒田、合原、進藤、関、玉井、西村、秦、華岡、前田、増池、松本、宮崎、森口、森、森下、森田、安居、山本、吉岡、渡辺、山田、鉄具、西井(新入会員)の皆さん(敬称略)30名と作品16本でした。

### ■上映作品

(今月の講評担当は安居世話役です)

#### 1. 雪だるまの情景

玉井 勻さん

5分

加賀白山の近くの村むらには家ごとに雪

だるまを作る風習があるそうです。その雪だるまが道端や「かまくら」の中にあります。しかも夜はろうそくの光でその雪だるまが幻想的に浮かび上がります。こういう光の世界をじっくりお撮りになるのが、玉井さんの得意分野だとおみうけしました。1シーンになみなみならぬ執念さえ感じられます。すばらしいポエムの世界です。一つだけ感じたことは雪だるまの間に入る風景シーンがもう少し長いほうが全体に落ち着きを増すように思いました、雪の降るシーンはよかったです。司会からBGMをもう少しメルヘンチックしたほうが…という意見がありました。

## 2. JR事故について

安居利次さん 8分

いち早く時事問題を取り上げたのはよかったのですが、JR西の宝塚線脱線事故の原因ともなると毎日毎日新しい時実が報じられどんどん変わるので結論を推理するのに困りました。人のミスはよく論じられているのでハード面の電気ブレーキを取り上げましたがもうひとつうまく解説できず、見ている人に不満をあたえてしまったようです。こうゆう作品は後で見ると背景が忘れられるので報道を伝えた新聞のカットを入れておくとよいと司会からの助言がありました。なるほどと思った次第です。

## 3. 都会の水辺

増池 茂さん 6分05秒

JR大阪駅の北方にある空中庭園、この周辺だけの水辺を丹念にお撮りになりました。4～5回いったことのある筆者もはじめ気づきませんでした。見ているうちにああ、あそこか、それにしてもうまくカットを切りとっておられるなど感心します。水辺っていいですね。何かほっとします。都会の中にこういう空間があること、意外と見落としがちです。

増池さんのビデオを見ているともう一度いってみたい気がおきました。カットつなぎも、うまくなられましたが水辺の背景にある憩いの感じを念頭に置かれて撮影されたら、つまり憩いを楽しんでいる人のカットをもう少し多くいれられたら都会の癒しの叙情詩が出来上がるように思えるのです

が…。

## 4. 五月晴れ・近江八幡周遊

森口吉正さん 7分16秒

拝見していて筆者も船に乗って水郷巡りをしている気分になりました。カットの組み立ての基本を心得られた編集はさすがです。あたりの景色に見ほれたあと船頭さんの顔のアップ、そして櫓を操る手、いつの間にかBGMは消えて櫓の音だけ、このあたりの演出はすばらしいです。森口さんがちゃんと第三者の目を意識して編集しておられる証拠なのでしょう。もうひとつ面白いと思ったのはナレの森口節（失礼！）がBGMの一部として聞こえてくることです。ナレの文章力もかなりなものだと推測しました。

## 5. 初夏の猿沢池・鷺池

奥 宏さん 4分50秒

みんなの目に慣れ親しんだ猿沢の池、よく知っているから逆に見るものにとってどう画いておられるか関心があります。池と柳と五重の塔を一枚のカットに収めるのは意外と難しいのです。というのは水面の反射と空の白に、つつい負けてうまくいかない。特に昼間少し曇っているとなおさらです。それで五重の塔、柳と別々に撮るか、柳から引いていって五重の塔にもっていくかするのですが奥さんは一枚のカットにうまく納められています。鷺池の方もそうです。全体像がわかってすばらしいです。ただミデアムとワイドのカットが重なり過ぎますと拝見して何か生理的に不満感が生じてきます。これはテレビをはじめアマチュア映像でもアップが多いのに慣れてしまっているからでしょうか、本当のところはわかりませんが皆さんもそうお感じになるとしたら、世の中の流れに私たちも流されているのかもしれない。

## 6. 得度式 森田光春さん 8分50秒

タイの男性2人が頭髪を剃ってお坊さんになる儀式を忠実に撮っておられます。次に頭髪を剃ったお坊さんがハスの花のつぼみを持ってみんなが食事しているテーブルを回っている光景が写りました。踊りと食事の場面と得度式がもうひとつ理解しにくかったのですが中ほどからなるほどこれが

得度式だ理解できました。最後にあの柿色の僧衣をまとって僧になるのですね。貴重な記録です。タイの風習がよく画かれています。ただ始めの食事をしていた大勢の人々の実態はなんなのか、そのときの踊りは得度式と関連があったのか疑問に残ります。できれば解説ナレを入れてほしかったです。

## 7. 京都歳時記 春

紙本 勝さん 9分45秒

さすがは紙本さん、京都の春の行事を克明に描写しておられます。2月北の天満宮の梅と野点、3月清涼寺のお松明、4月は鴨川沿いの桜、祇園の都おどり、そして醍醐の花見、城南宮の曲水の宴、名前はみんなよく聞きますが実際のカットとなると全部撮っている人は紙本さん意外にないでしょう。日本中の祭りと行事をうまく撮るためには技術以外に時間と体力と執念が必要です。それを巧みな編集力で作品にされる才能は日本のアマチュアビデオ作家のなかでも本当に貴重な存在だと思います。とりあえずは夏・秋編を期待しています。

## 8. 水鳥たちの一日 (ワイド)

進藤信男さん 9分45秒

進藤さんがワイドでお撮りになった初めてのテーマが確か水鳥だったと記憶しています。このたびも米子まで行かれてコハクチョウの生態をうまく撮られています。中海干拓事業で湿地帯がなくなるのを惜しんで米子水鳥公園ができました。ここはコハクチョウの集団越冬地としては南限だそうです。朝えさを取りに出かけた鳥達は対岸の安来の水田にある二番穂が目あてだったとか。ところが水田の改良工事でその二番穂がなくなる。水鳥たちの不安げな様子はそのためだったようです。人間の利害と水鳥達のエサの不足、せつかく水鳥公園を作っても鳥の習性を考えないと水鳥たちも来なくなる。鳥の生態だけでなく、共生という大きな問題を提起されていました。水田の工事で二番穂がなくなった今年の秋はどうなっているのか、その結果を知りたいと思いました。追跡観察、お願いします。

## 9. 晩秋の穂谷 (ハイビジョン)

前田茂夫さん 6分45秒

枚方にもこうゆう鄙びたところがあるんですね。「晩秋の穂谷」タイトル通りの情景がよくあったBGMとともに見ている人たちに臨場感を誘います。もちろんハイビジョンの精緻な画像も一役買っていることはいまでもありません。SLの前田さんとしてはあまりにも有名ですが一方情緒溢れる映像もすばらしいです。河内そうめんの場面も研究会の時より短くされていたので全体の再構成とあいまって一編のポエムとして心に郷愁を感じました。ハイビジョンはこうゆう題材にこそ威力を発揮するものだと思いました。

## 10. 大川端 (ワイド)

有村 博さん 7分36秒

今年は一気に咲いた桜ですのでよけい見ごたえがあります。その春爛漫のムードを大川端という絶好のロケーションで遺憾なく見せていただきました。大川端も桜のあるなしで全く印象がちがいます。大阪水上バスも桜の季節は特別料金だそうです。満員です。天井を開いて運行しているのは初めてみました。外輪船ひまわりも川面の桜と調和して雰囲気を盛り上げていました。それに花吹雪は撮れそうでなかなかとれないシーンですがぼっちり撮っておられるのには感心しました。こういうカットを撮っておくとほかの作品にも使えるのでうらやましいかぎりです。「桜だけとってもなあ…」とよく言います。しかし有村さんの作品を見て来年からは桜の季節はやはり撮りに行くべきだと思いました。

## 11. アメリカ村 (ワイド)

江村一郎さん 8分20秒

アメリカ村は怖いという印象があったのでよく撮られたなと感心しました、それとラストの近くから、われかけたSEの音楽とあいまって江村さん特有のアップのつなぎにひきこまれました。これを書くためにもう一度ははじめから見直しました。するとラスト部分以外の印象が少しかかりました。率直に言うとはじめから中ほどまで映像に違和感を感じたのです。それはつなぎが公式に当てはまらないからなのでしょう。面白いカットも多いのですがチョットわけがわからなくなってしまったのです。

これを江村流映像という言葉でくくって納得していいものか。新しい映像の好きな筆者も困ってしまいました。江村さんにじっくりお話をお伺いしたいと思います。

## 12. 浦島伝説

鉄具嘉夫さん 3分30秒

前回は「犬養孝の万葉を歩く」でしたが今回も万葉集の高橋虫麻呂の「浦島伝説」です。浦島伝説の地は日本各地にあります。丹後半島の網野の嶋児神社と伊根の浦島神社を取材されたようです。ナレは虫麻呂の原文を朗読されました。浦島伝説はよく知られている内容ですが私たちには原文のナレはチョットしんどいです。出来れば高橋虫麻呂を全く知らない私たちを対象に浦島伝説をわかりやすくビデオにしていただけばと思いました。

## 13. 久米寺の練り供養

渡辺雄史さん 8分50秒

若い女の肌を目にした久米仙人が神通力を失って空から落ちてくるという話は有名ですから ああ、あの久米仙人のお寺かとまず興味をひきます。「練り供養」の意味と 25 菩薩の関係を解説していただきすっとなりました。当麻寺や大念仏寺と違って久米寺の練り供養は素朴でいいなと思いました。面をかぶる裏舞台もしっかりおとりになっているので地域だけで行うローカル性がにじみ出していました。仙人でありながら失敗をやらかす人間くさは今も脈脈と伝わっているようでそれをうまくビデオであらわしておられると感心しました。

## 14. 五軒家戒

宮崎紀代子さん 5分

富田林の五軒家神社にえべっさんが出来たのが3年前だそうです。福笹に人気が集まっているようです。この近くは園芸農家がむかしからあり富田林の古い屋敷町とよく調和しているようです。福笹売りの地元のおばさんとの会話を取り入れて若いえべっさんの繁盛ぶりをうまく画いておられます。うまくお撮りになるなど感心しました。このあたり河内音頭の本場ですから何か行事があるとあとですぐおどることになるのですね、えべっさんと関係ない河内音頭ですがその流れが実にスムーズに感じまし

た。土地柄ですか。

## 15. トロッコが走る

山本正夢さん 6分30秒

あまりにも原始的な光景を見てアーッとさけびそうになりました、ガタガタの鉄路がかなたまで伸びています。最初に出てきたバタンバン駅はカンボジアの第二の都市にあるそうです。一日一便には驚きました。その鉄路にトロッコを載せガソリン発動機を動力にして人が乗っているのを見て感心しました。「トロッコは単線で行き交うことができません」のナレ。対抗車両が見えたときどうするのか、手に汗を握りました。「単車を積んでいるので優先です」対向車に乗っていた人々が降りて車体を横の地面に！線路の上に残った車輪をいとも簡単にこれも横の地面に！、山本さんの乗ったトロッコは何事もなく走り出す。次にきた車両の時はこちらが分解して道を明ける。まことにのんびりとしたほほえましい情景です。本当の列車にも遭遇しました。急いで分解退避です。HP で見たら時速40 kmだそうですが、「ゆれ」と「がたごと度」はすごいとありました。さもありなん！あの線路の上を走るんだから、妙に納得しました。山本さん、面白いビデオありがとうございます。

## 16. 清姫悲恋

岡本至弘さん 5分20秒

非常にうまくいわゆるカラオケビデオをお作りになっています。カラオケビデオの一番の焦点は歌とともに歌詞のスーパーの色が変わることです。これが技術的にむづかしかったのです。背景のビデオは見たことがあるカットだと思ったら OMC から撮影にいった中辺路の風景でした、それにしてもうまいなと思ったのですが、後で聞いて見るとローランドの編集機のソフトの中にカラオケ用がありスーパーの色変わりも簡単に作れると種あかしされました。歌っておられる峰じゅん子さんには大いに感謝されたよし、納得！

## ◆ビメール・コンテスト代理応募受付中

第2回目のメ切は7月15日です。代理応募ご希望の方は例会にテープをご持参ください。(広報担当 前田)

## 小型ハイビジョンカメラ SONY HDR-HC1 について考える (7月7日発売予定)



アマチュア用ハイビジョンカメラは2003年春に Victor から 720P の GR-HD1 が発売されて、これまで放送局専用のフォーマットとして垂涎的であったハイビジョン映像を、一般の私達でも扱えるというわけで大きな関心呼びました。当初はカメラにバンドルされた編集ソフトが扱いにくく、手軽に誰でも編集できるというわけではありませんでした。しかし、ハイビジョン映像 (HDV) はその美しさ、解像度、精細感からこれまでの DV フォーマットとは全然異なりその美しさで驚きの目を持って受け入れられました。その後 2004 年 10 月には SONY から 1080i の HDR-FX1 が登場し、少し遅れて編集ソフトもプレミアプロ、カノープス、Apple、Ulead の各メーカーから続々登場し、パソコンの性能さえある一定のレベルに達していれば、実用上支障のないところまで達しております。2005 年 7 月 7 日には SONY から小型の家庭用ハイビジョンカメラ HDR-HC1 が 18 万円前後で登場すると発表されており、これまで高嶺の花であった一般用ハイビジョンカメラも充分手の届くところに降りてきたものと歓迎されています。この価格なら高級 DV カメラより安く、いよいよ本格的にハイビジョン時代の急速な進展が見込まれるのではないかと期待されています。

HDR-HC1 は写真で見ると、非常に小さくよくぞ手のひらに載る位の小ささに作り上げたものと SONY の技術力に感心します。惜しむらくは、3 CMOS でなかったことです。コストダウン重視のためでしょうか？これが残念な点です。

現時点 (2005/6) では HDV の編集方法は主に次のようなものがあります。

- ①プレミアプロ 1.5 (¥ 88,000)
  - (1) Adobe 純正 plugin for HDV (無料)
  - (2) Main Concept Pro HDV (¥ 50,000)
- ②カノープス
  - (1) EDIUS Pro 3 (¥ 69,800)
  - (2) VELUS Station (¥ 980,000) 他各種
- ③ Apple
  - (1) Final Cut Pro 5 (¥ 93,333)
  - (2) iMovie (¥ ?)
- ④ Media Studio Pro7 (¥ 59,800)
  - (1) HDV Plugin ver2.0 for Ulead Media Studio Pro7 (¥ 15,000)

### ⑤ SONY Vaio パソコンの最新機種

ピンからキリまで各種いろいろあって選択に迷うところです。

- ①の純正プラグイン (無料) は、シーン検出キャプチャーが出来るので、カット割り編集が楽です。しかし、AVI ファイルのために、ディスク容量を非常に食います。
- ②の Main Concept はシーン検出キャプチャーが出来ない。従ってワンカットづつ分割する手間が大変。一方 MPEG2 なので容量が少なく済む。操作性は同じようなものと思っています。PC の仕様が充分 (特にメモリは 2GB 欲しい) であれば、タイムラインの移動・スクロールは高速で行えて快適です。さて、編集用 PC をどうするかですが、簡単な方法からいうと、1.最新の Vaio を買う、2.パソコン SHOP または通販 SHOP で組み立ててもらう、3.Canopus のシステムパソコンを買う、4.自分で組立てる。この 4 方法が考えられます。3.のシステム PC は非常に高価なので、2.の SHOP で組立ててもらう方法が安上がりでいいように思います。Vaio は好きずきです。HDD の拡張性には困ります。

ビデオ業界の技術的進歩の凄さにはいつも驚かされます。また、その甲斐があつて、私達普通のアマチュアがいたって簡単にハイビジョンを扱えるといういい時代になったものと感嘆せざるを得ません。HDV の良さを知ったら、「もう DV に戻りたくない」、これが私の正直な感想です。

(文責 前田)